

ヤマコン
と田名部組

八戸でメガソーラー竣工

2サイトで4.9MW発電

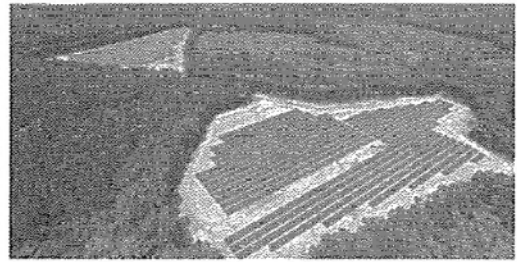


佐藤隆彦社長

ヤマコン（本社・山形市、佐藤隆彦社長）と田名部組（八戸市、田名部

智之社長）が共同出資する合名会社「はちのへプロジェクト」が運営するメガソーラー発電所が2サイトに竣工し、7月1日から東北電力への売電を開始した。両社は同月に現地でも火入れ式を行った。

合名会社はヤマコンが80%、田名部組が20%出資して設立。総事業費は14億5000万円、発電容量は4・9メガワット。山間部に位置する事業用地は八戸工業大学から賃借し、北側の折場沢太陽



7月から発電開始

光発電所（発電容量は約2483キロワット）と南側の北ノ沢太陽光発電所の2サイトを建設。315ワット多結晶シリコンのパネルを合計で約1万5800枚設置した。約1400世帯分を発電し、売電により年間1億7000万円の売り上げを見込む。ヤマコンは本業を補完する事業として国のFIT（固定価格買い取り制度）がスタートした初年度から、太陽光発電の事



関係者が竣工を祝った

業化に着手し、13年1月に石巻営業所倉庫屋根に20キロワットの低圧発電所を設けて実証試験を行った上で、同年8月に山形本社倉庫屋根に300キロワット、14年には関東の自社遊休地2カ所に合わせて360キロワットの野立て発電所を稼働させた。これまでに8カ所（1・8メガワット）の太陽光発電所を稼働さ

せているが、メガソーラーは今回が初めて。16年1月に三井住友銀行が同プロジェクトを仲介し、当初から計画していた田名部組とともにプロジェクトに参画することになった。田名部社長とは10年来の旧知の仲で、経営コンサルタントが主催する勉強会のメンバーとして切磋琢磨している仲間だった。

神事のあと、会場を八戸市内のホテルに移して竣工式を開催。冒頭、施主として佐藤社長が登壇し、「関係者と検討を重ね、着工まで1年かかった。その後、5カ月で竣工できた。太陽光パネルが整然と並び、敷地全体がきれいに造成され、発電所全体の完成度の高さに大変満足している。太平洋を望む雄大な自然環

境に溶け込み、三角形を2つ組み合わせたような、例えるならば大きな砂時計のようなシンボリックな発電所の形に感動した」と述べ、感謝した。

次いで来賓を代表して三井住友銀行の草沢哲也東北法人営業部長とみちのく銀行の堰合弘樹八戸法人部法人営業課次長、東京共同会計事務所

の北川久芳アドバイザリーグループ・マネージャが祝辞を述べたあと、田名部社長が乾杯を首唱し、和やかな懇談が続いた。